

令和元年度 授業改善推進プラン 調布市立富士見台小学校

【「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】

- 基礎的・基本的な知識・技能を定着させる。
- 授業改善推進プランに基づき、個に応じた指導の充実をはかり、多様な指導方法の形態を取り入れる。
- 言葉と学びを大切に、自ら伸びる力、協働する力を育成する。

【「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果分析内容】

4教科全てで都の平均を上回った。
 国語…全体としては、2. 3ポイント、都の平均を上回っている。ただ観点別に見ると「知識・理解」のみ平均を5. 4ポイント下回っている。前学年までの配当漢字を確実に定着できるよう反復学習を行っていく。
 社会…全体としては、4. 5ポイント、観点別も全て都の平均を上回っている。しかし、「思考・判断・表現」は他の2観点で5ポイント以上プラス値であるのに対し、2. 1ポイントのプラスにとどまっている。知識や技能を使って考えたり、それを表現する活動を増やしたりして授業改善に取り組む。
 算数…全体としては、5. 2ポイント、観点別も全て都の平均を上回っている。「技能」に比べ「知識・理解」と「思考・判断・表現」のプラス値がやや低い。図形概念について理解を深められるよう授業を工夫する。また、学習したことを実生活や他教科で生かしたり、いろいろな解決方法を筋道を立てて説明したりする活動を積極的に取り入れていく。
 理科…全体としては、3. 7ポイント、観点別も全て都の平均を上回っている。しかし、「思考・判断・表現」は他の2観点で4ポイント以上プラス値であるのに対し、1. 2ポイントのプラス値にとどまっている。児童一人一人が実験・観察の目的、方法を考え、明確にして取り組めるよう実験・観察のさせ方を再度見直し、工夫する。

【授業改善の方針・目標】

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、それらを活用して考え、判断し、表現するような学習を工夫したり、他者と協働したりする学習活動を各教科で位置付けて、児童に生きる力を育む。

【授業改善のための具体的な取組】

- 校内研究テーマ『「考え・議論する道徳」の授業づくり ～自他を愛する児童の育成を目指して～』と関連付けながら、以下の4点について取り組む。
 - 研究授業の実施→年間5回(全教員で授業を見合い、講師を招聘し協議会を開く) 講師招聘の協議会を実施しない学年については、分科会ごとに日程を調整し、校内公開授業(研究授業)を行う。
 - 学校公開→研究テーマを念頭に入れた授業を積極的に展開する。
 - 「考え・議論する道徳」の授業づくりに向けて、指導観(価値観、児童観、教材観)を明確にして、授業実践に臨む。
 - 学習・生活規律の全校統一 →学習準備や学習中の心得を児童に示し、重点は学年・学級ごとに決め、学期末ごとに学級・学年朝会で確認・評価を行う。
- 読書の量と質の向上に向けて、以下の6点について全校で取り組む。
 - 読書に親しむ態度を育てる
 - 毎週木曜の読書タイム(読み聞かせを含む)
 - 「本は友だち」「読書貯金通帳」で読書記録を取る
 - おすすめの本(必読書 富士見台よむよむキッズ60の選定)
 - 図書室整備
 - 図書委員会や家庭と連携した読書月間・読書旬間の設定
- 国語科では、基礎的・基本的な学習内容や、何をどのように生かすかを明確にした単元学習・授業づくりを目指すために、学習課題と発問を工夫したり、意図的に対話学習を活用したりして、考え・根拠・理由の3点セットで対話して考えを深める指導に取り組む。
- 社会科では、表やグラフ、写真、地図などの資料を活用できる力を養うために、必要な資料を選択、活用しながら、比較したり関連付けたりする活動を充実させる。また、地図記号や方位、都道府県名と位置、世界の主な国名と位置といった基本的な知識を、地図や地球儀を用いながら確実に定着させていく。
- 算数科では、習熟度別少人数指導を活用し、基礎・基本の確実な定着を図ると共に、問題解決的な学習過程を通して、解決方法を言葉、図、表、グラフなどと関連付けて論理的に説明したり、自分の考えを友達と交流しながら考え

- を深めたりすることができるようにする。基本的な計算練習を継続して行う。特に、四則計算技能、道具の正しい使い方に重点を置く。
- 理科では、問題解決的な学習を取り入れ、実験や観察の目的や方法、仮説や経過、結果の考察を自分の言葉でまとめたり、他者と協働したりする学習活動を取り入れる。
 - 体育科では、体力テストの結果を受け、握力・投力・跳力の強化を重点に、芝生の効果的な利用を図ることにより体力向上に努める。
 - 生活科では、一人一人の児童の思いや願いを活動に広げていく。活動の様子やつぶやき、表現したものを記録・分析し、次の活動へとつなげていく。
 - 音楽科では、正しい音程やリズム、階名、鍵盤ハーモニカ・リコーダーの運指、息づかい等の基礎的スキルを身に付けさせると共に、歌のよさや楽しさを感じ取り、発達段階に応じた表現ができるよう指導を工夫する。
 - 図画工作科では、道具の安全な使い方を身に付けさせると共に、興味・関心を引き出す題材設定や用具・材料の準備を行い、個々の達成やつまずきを把握し、個に応じた適切な指導を行う。鑑賞授業を効果的に行う。
 - 家庭科では、衣食住の基礎的スキルを身に付け、自分の身の回りの生活に生かせるように指導を工夫する。また、裁縫、ミシン、調理の基礎的スキルを、保護者による「支援の輪」の協力を得ながら個別に対応し、基礎・基本の定着を図る。
 - 保護者による「支援の輪」、地域のボランティア団体との連携を推進する。
 - 児童への確かな学習習慣の定着を図るために、「富士見台小学校 家庭学習の手引き」「東京ベーシックドリル」を活用し、保護者会・面談等を通してよりよい家庭学習の在り方を保護者に啓発したり、児童への指導を行ったりする。

【取組の進行・管理、評価方法、時期】

- 研究授業による検証及び評価 →6月2回、9月1回、10月2回、計5回…研究協議会を開く。講師から指導・助言を受ける。日々の教育活動や次年度の指導に活かす。
- 児童・保護者等の評価 →11月、2月…児童・保護者・地域の方・教員が、評価を行い、集計結果を分析して指導に活かす。
- 学期末・年度末反省による評価 →7月、12月、2月…校内で課題に対する改善策を話し合い、指導に活かす。
- 管理職による授業観察による評価 →2学期以降の授業観察において、授業改善推進プランの内容を指導略案上に明記することで、授業改善推進プランの意識化を図る。